

地籍調査について

～ 地籍調査の進捗率の
向上を図っていきたい～



おの じゅん いち
小野 順

創 生 会

質

地籍調査は、合併以前から旧町村ごとに取り組み、平成21年に策定した第6次10カ年計画が来年度に最終年を迎えることで、約60年が経過することになる。これまでの進捗状況と完了予定は。

答
市長

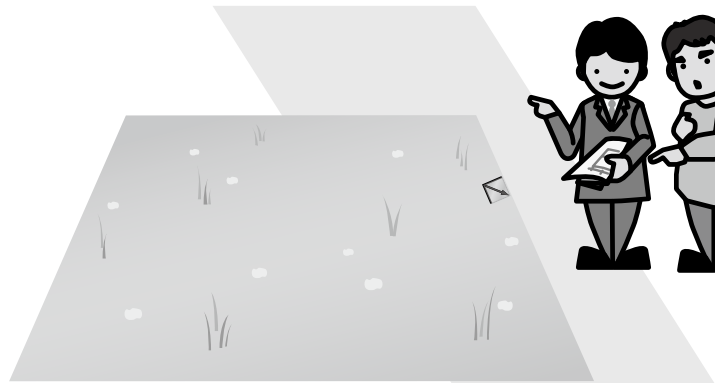
地籍調査事業は、犬飼町が平成2年度、緒方町が平成27年度に完了しています。平成29年度までに三重町25%、清川町23%、朝地町48%、大野町

17%、千歳町67%で、市全体では49%が完了しています。平成30年度は、三重町、朝地町、大野町、千歳町の4町で1・77平方キロメートル、事業費8340万円で実施しています。

地籍調査は10年間の計画を策定し実施していきますが、近年の高齢化、過疎化の進行により、境界立ち会いが困難となっており、大きな課題です。

しかし、地籍調査事業の実施により、正しい位置、境界、地目、面積などが明確になり、税負担の公平化や災害時の復旧、復興が円滑に進めることができるなど、大きな利点があります。

地籍調査事業の利点を最大限に生かしていくためには、地籍調査の完了までに50年以上の期間を要すると想定している現在の事業



質

進捗率を上げるような計画の見直しが必要かと思うが。

答
農林整備課長

これまでの第6次10カ年計画を精査し、第7次10カ年計画に反映させたいと考えています。

今後は、市全体の進捗率向上を念頭におき、地籍調査事業の推進を図っていきたいと考えています。

その他の質問
・携帯電話不感地域の解消に向けての取り組みは



えとう たつ や
衛 藤 竜 哉

市民クラブ

国民文化祭「おおいた大茶会」の検証は

～ 当初の見込みをほぼ達成～

質

「第33回国民文化祭・おおいた2018」及び「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」は「おおいた大茶会」のテーマの下、いろいろな催しや祭典が行われた。

このイベントは本市にどのような影響があったのか。また、これからの芸術文化、伝統芸能の発展振興にどうつなげるのか。

答

総務企画統括理事

朝倉文夫記念公園の巨大寝ころび招き猫



巨大寝ころび招き猫（朝倉文夫記念公園）

では、多数の地元ボランティアスタッフがサポートしていただき、また「おおいたこども彫刻展」等にも、市内外から多くの小中学生に参加していただきました。

清川町能場公園で開催した耕す里の大御幸祭は、市内外から招待した神楽座や郷土芸能団体の競演により、地域の魅力を発信することができました。

エイトピアおおので開催した実りの里芸術祭は、文化芸術団体や

学校のほか、市内から幅広い年齢層の市民に参加いただきました。

三つの事業は当初の見込みをほぼ達成できたと考え、成功裏に終えることができたのではないかと評価しています。

大会をきっかけに、本市を訪れた皆さまには本市の素晴らしさを感じていただいたと認識しています。

今後、実行委員会で検証結果を生かし、観光振興に努めます。

旧公立おがた総合病院周辺の環境整備は

～ 市と検討したい～

質

旧公立おがた総合病院跡地や旧医師住宅周辺の整備が手付かずではないか。ジャングル化している旧医師住宅、雑草もそのまま放置の現状。閑静な住宅地域だが、将来的な展望は。

答

病院長

旧医師住宅は、建物の老朽化が進み、利用率は低い状況です。現時点は、具体的な将来計画はありませんが、土地は市の所有地であるため、今後、市と検討していきたいと考えます。

その他の質問
・市道の管理体制について